

トビウオ通信 (H18 第 3 号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。ホームページにはバックナンバーもあります。)
<http://www2.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成 17 年漁期の底びき網漁業の動向》

小型底びき網 1 種漁業 (かけまわし)

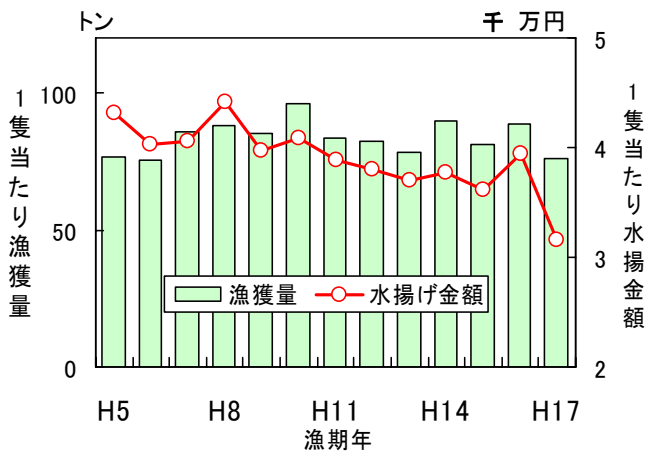


図 1 小型底びき網漁業における 1 隻当たり漁獲量と水揚げ金額の経年変化

1 隻あたり漁獲金額は 2 割減少

島根県の小型底びき網 1 種漁業 (かけまわし) 57 隻* の平成 17 年漁期 (平成 17 年 9 月 1 日～平成 18 年 5 月 31 日) の総漁獲量は 4,233 トン、総水揚げ金額は 17 億 5,435 万円でした。1 隻あたり漁獲量は 76 トン、水揚げ金額は 3,156 万円といずれも平年 (10 年平均値 85.8 トン、3,924 万円) を下回りました (図 1)。これは、漁期当初から大型クラゲが大量に来遊し、操業に支障が生じたことに加えて、魚価の高い年末に時化が続き、出漁日数が減少したことが原因です。

* 当漁業における島根県全体の操業隻数は 58 隻ですが、統計は 57 隻分の集計です。また 1 隻あたり漁獲量は途中休漁した 2 隻を除いて計算しています。

カレイ類低調

ソウハチの 1 隻あたり漁獲量は 11 トンで、前漁期並み、平年を 3 割下回りました。また、ムシガレイの 1 隻あたり漁獲量は 5.2 トンで、平年を 1 割下回りました。一方、近年安定しているヤナギムシガレイの 1 隻あたり漁獲量は平年を約 2 割上回る 1.9 トン、メイタガレイの 1 隻あたり漁獲量は平年の 5 割に留まり、0.8 トンでした。カレイ類は全体的に低調に推移しました。

イカ類低調

ケンサキイカの 1 隻あたり漁獲量は 2.7 トンで、前漁期を 1 割上回ったものの、平年の 9 割に留まりました。また、ヤリイカの 1 隻あたり漁獲量は 0.9 トンで、平年の 5 割の漁獲に留まりました。

ケンサキイカ、ヤリイカともに低調に推移しました。

アンコウ好調!

ニギスの 1 隻あたり漁獲量は 10.9 トンで、前漁期、平年の 9 割に留まりました。キダイの 1 隻あたり漁獲量は 4.1 トンで好調だった前年の 5 割に留まりました。アンコウの 1 隻あたり漁獲量は 6 トンで、平年を 1 割上回る水揚げがあり、近年は高水準で推移しています。一方、アカムツは前年の 7 割程度の漁獲に留まりました。

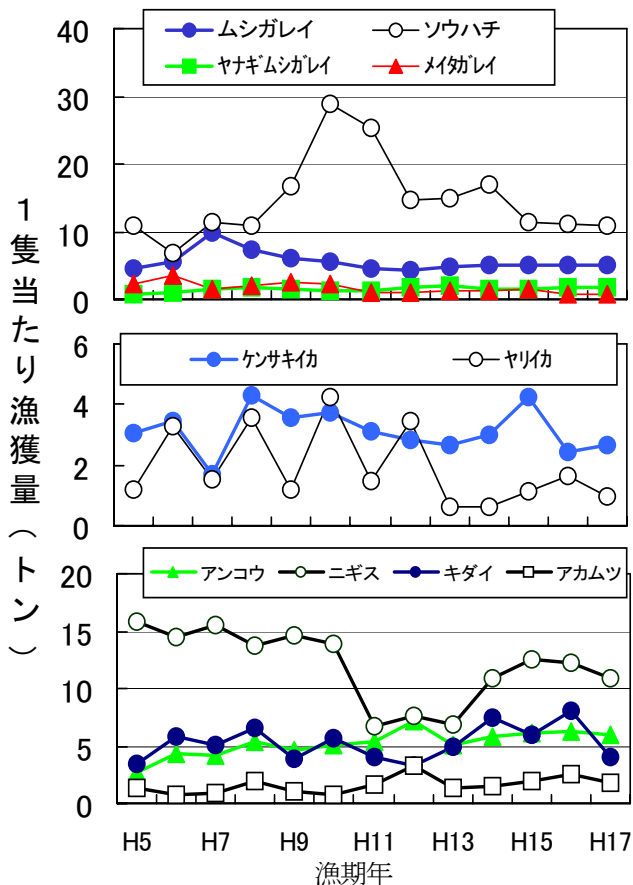


図 2 小型底びき網漁業における主要魚種の動向

沖合底びき網漁業(2そうびき) (県西部)

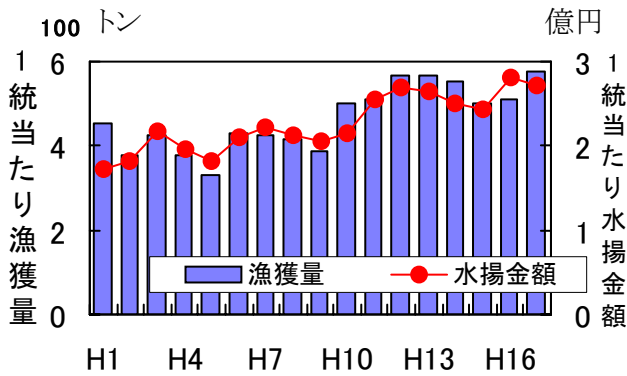


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における1統当たり漁獲量・水揚金額の動向

カレイ類好調

ムシガレイの1統当たり漁獲量は78トンで、前漁期を2割、平年を3割上回りました。ムシガレイはここ数年、資源的に減少傾向に転じていましたが今漁期は小型魚が多く漁獲されました。平成13年以來の卓越年級群の出現が期待されます。

近年減少が続いていたソウハチですが、今漁期は冷水の張り出しが例年よりも強く、冷水を好む本種も比較的獲れました。1統当たり漁獲量は32トンで、前漁期の約2.3倍の漁獲がありました。また、ヤナギムシガレイの1統当たり漁獲量は20トンで、前漁期の1.1倍、平年の1.3倍の漁獲がありました。カレイ類は概ね好調で、大型クラゲの大量来遊による漁獲量の落ち込みを下支えしました。

イカ類低調!

ケンサキイカの1統当たり漁獲量は20トンで、前漁期、平年の約3割に留まりました。一方、ヤリイカの1統当たり漁獲量は13トンで、ほぼ平年並みに推移しました。

アンコウ好調!

アナゴの1統当たり漁獲量は34トンで、前漁期、平年並みでした。アンコウの1統当たり漁獲量は45トンで、好調だった前漁期を1割上回る漁獲がありました。また、キダイの1統当たり漁獲量は15トンで、好調だった前漁期の3割、平年の6割に留まりました。

アカムツは漁期前半は低調だったものの、後半まとまった漁獲がありました。1統当たり漁獲量は16トンで、前年、平年を2割から3割上回りました。しかしながら、小型魚が中心であったことから金額には反映されず、漁獲金額ベースでは前年から3割の減少となりました。

一方、ニギスは前漁期の2.5倍、平年の1.9倍の48トンの漁獲がありました。

1統あたり漁獲金額は近年では最高

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業(操業統数6ヶ統)の平成17年漁期(平成17年8月15日~18年5月31日)の総漁獲量は3,460トン、総水揚金額は16億2000万円でした。また、1統あたりでは、漁獲量576トン、水揚げ金額2億7,075万円で、平年(過去10年平均494ト、2億4,251万円)を1割以上上回りました。漁期当初から大型クラゲが大量に来遊し、操業に支障が生じましたが、魚価の高い年末の漁獲が好調であったことから水揚金額の落ち込みを抑えることができました。

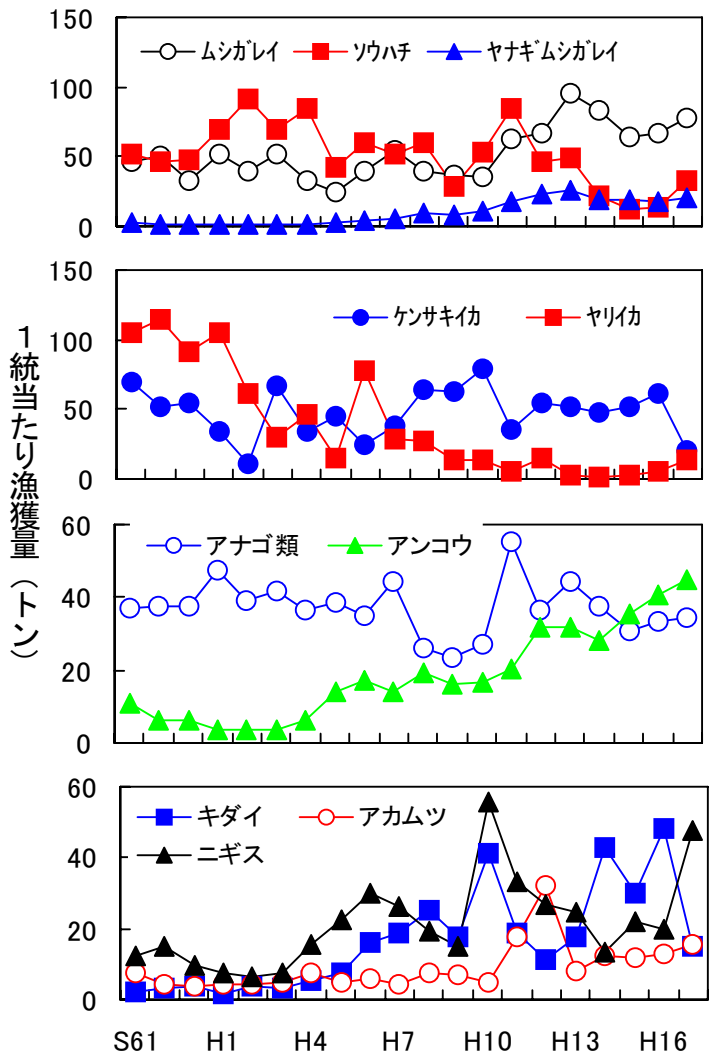


図4 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の動向